

日刊 動労千葉

83. 11. 4

No. 1484

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

11・9レーガン来日阻止を全力で闘おう

11・9レーガン来日阻止を全力で闘おう

11・9レーガン来日阻止を全力で闘おう



動労千葉は第八回定期大会において、激動の八〇年代を戦闘的に闘い抜く決意も新たに、中野委員長を先頭とする新執行体制を確立し、10・9三里塚現地集会の圧倒的成功をかちとることをはじめとする闘いを取り組んできました。激動を深める国内外情勢の下で、動労千葉は十一月一日、第一回支部代表者会議を開催し、「11・9レーガン来日阻止」を突破口とする「83秋年闘争の取り組みについて」、次のとおり意志一致をかちとりました。

11・9闘争の高揚をかちとり 秋年闘争に勝利しよう！

アメリカ帝国主義による「グレナダ軍事侵略」や、レバノン、ビルマでの爆弾テロを見るまでもなく、全世界は世界大戦の「宣戦布告前夜」的状況にあります。

まさに世界体制の崩壊的危機のなかで、中曽根内閣は「戦後政治の総決算」を呼号し、生きるか死ぬかかけた攻撃にうってでてきています。

「国鉄問題」を前面にした「臨調」行革」攻撃を軸に、軍事大国化→改憲攻撃をより凶暴化させています。全国で二四〇〇名もの要員を合理化する「59・2ダイ改」、動乗勤改悪をはじめ、「再建監理委員会」設置の攻撃は、反動中曽根の軍事大国化攻撃の中心環といえます。

この凶暴な攻撃に対して、動労「本部」革マルは、中曽根→国鉄当局の尖兵となつて、合理化と職場規律攻撃への屈服を強要しています。

一方、総評は、人勸無視の「公務員給与二％改訂」や「減税」問題、反戦闘争の課題で総評全体が一致して取り組み得ないばかりか、社会党は戦争放火者レーガンの来日に「反対しない」という問題のある対応をしています。

こうした否定的状況を突破し、「83政治決戦」の勝利を切り開くために、「11・9レーガン来日阻止」を全力で取り組み、この闘いの高揚を「行革」「人勸・仲裁」をはじめとする国会情勢の節節の闘いに反映させ、仲裁裁定早期完全実施、年末手当獲得をかちとり、「59・2ダイ改」を阻止していかなければなりません。

83秋年闘争の具体的取り組み

以上、当面する情勢について明らかにしてきましたが、その他「内達一号を中心とする動乗勤改悪」、「服装規程改悪をもってする氏名札着用強要をはじめとする第二マル生職場規律」などの攻撃の激化は必死であり、われわれは、第八回定期大会方針に基づき、断固闘い抜くこととし、当面次のように取り組みます。

- (1) 11・9レーガン来日阻止闘争について、多摩川緑地公園で開催される「11・9レーガン来日阻止・中曽根内閣打倒・全国総決起集会」（反対同盟・動労千葉・支援共闘などに結集する広範な人士の連名の呼びかけによる集会実行委員会が主催）に全力動員で取り組む。
- (2) 「11・9」の闘いの高揚をもって、「行革」「人勸・仲裁」をはじめとする国会情勢の節々における社会党、総評などの呼びかけられる闘いに全力で参加し、仲裁裁定早期完全実施、年末手当獲得へ向けて、ストライキを含むあらゆる戦術を行使できる組織体制を強化する。
- (3) 「59・2ダイ改」については、「申一号」をはじめとする団体交渉を強化し、十二月末にむけて「12・15全国労働者集会」の成功をかちとる取り組みを強化する。
- (4) ワッペン着用闘争は当面継続し、十一月五日以降については別途指示する。
- (5) 「氏名札着用」攻撃については、当局の着用強制を拒否して闘う方向で取り組むこととする
- (6) 各支部は、以上の取り組みを全体化するため職場集会、個別オルグなどを実施する一方、十一月中に各支部定期大会の開催を完了し、闘争体制を確立することとする。

当面するスケジュール

11月7日	第十六回中江公判 東京地裁
9日	11・9レーガン来日阻止闘争 多摩川緑地公園
10/11日	乗務員分科定期委員会 御宿
12日	サークル協へら鮎釣大会 栗山川
24日	サークル協テニス大会
14日	銚子支部大会
18日	館山
19日	成田
21日	幕張
25日	勝浦
28日	蘇我
12月15日	全国労働者集会 教育会館
12月15日	動労千葉団結旗開き